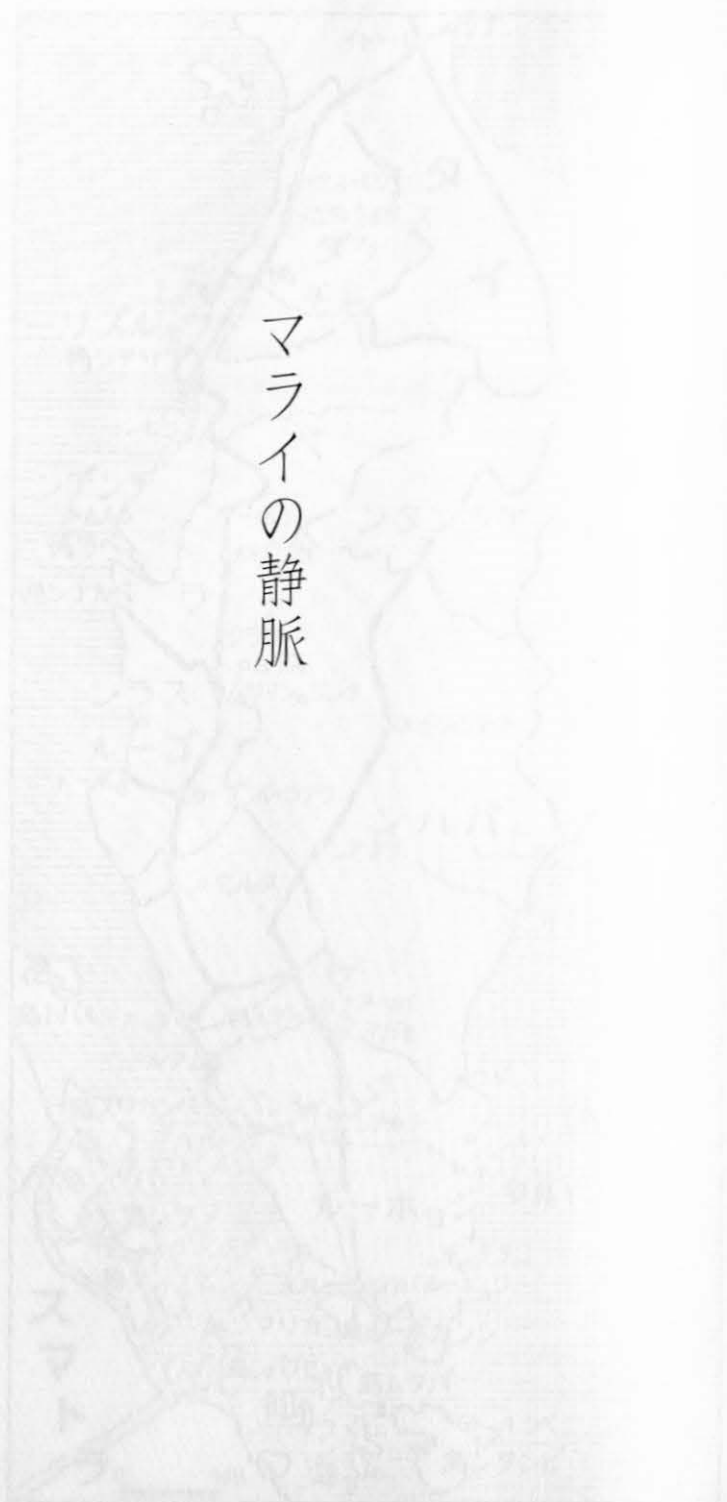


マライの静脈

長瀬義典著 寺崎浩



マライの静脈

大正

南洋のイラマ

(南洋支那の南洋支那)



南洋支那の南洋支那

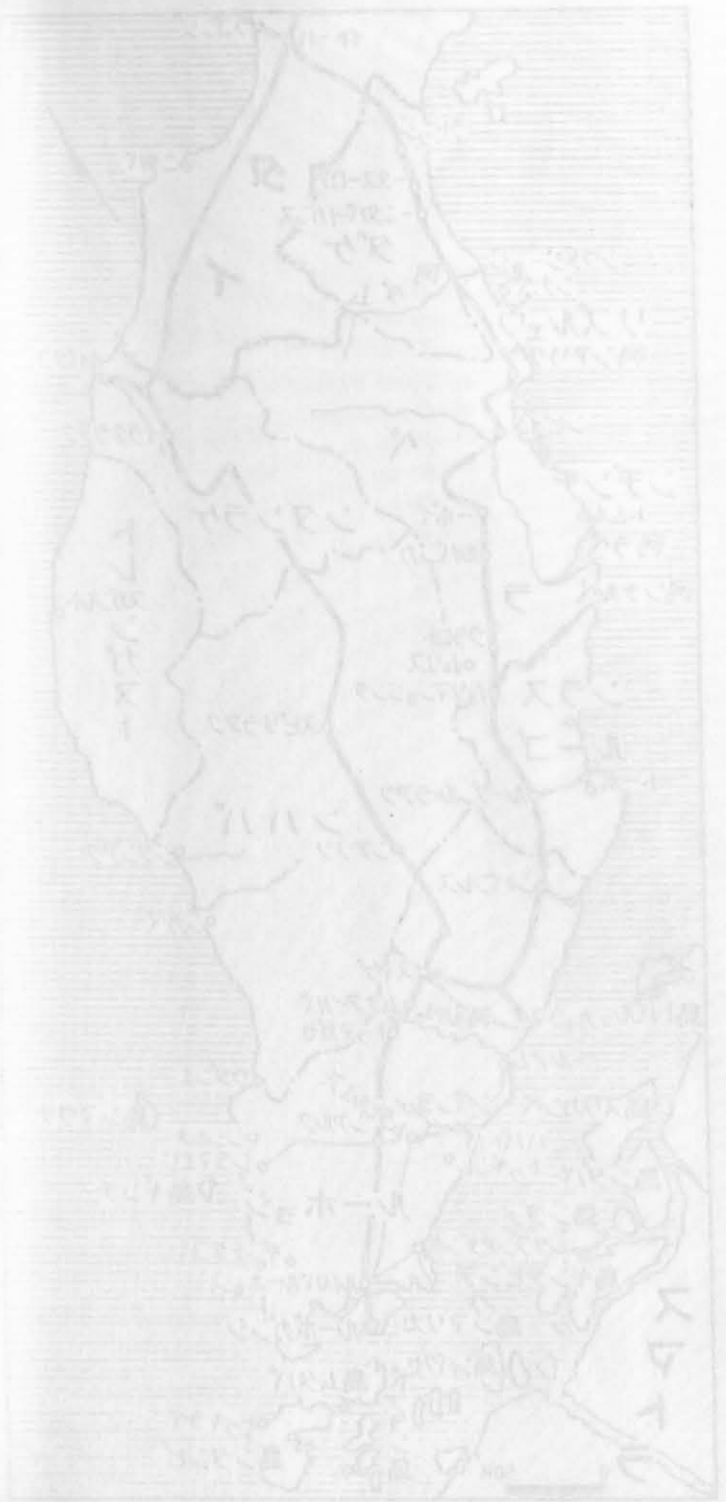
# マライの静脈

陸軍報道班員

寺崎浩



マライの静脈



マライの靜脈 目次

月と電播……………三

椰子と重爆……………四一

ペナン回復……………五七

雲と友情……………七三

旗と結婚……………八五

鳥と白粉……………一二三

鞭と海岸	一六一
豚と水浴	一八五
醫務と海峡	一九三
月と鐵橋	二二一
唄と雜草	二三九
後記	三五二

# マライの靜脈

踊り展く姑娘の耳の耳飾りほのかに揺れぬ夜のキャバレー

何となく自動車馳せやるさがとなりき今日色褪せぬカトンの濱は

現地におけるつれづれなるまゝの  
作なれば自分のたゞ慰みにしるし  
たるのみ。陣中新聞を賑はしたる  
程度にして、戦地にもこのやうな  
慰安はあると思はれたきものなり。

## 後記

私ははからずも大東亞戦争に従軍するの光榮に浴して戦争といふものゝ凄烈さに一驚した。

一國と一國との生死を賭した戦争ではなりふりを考へることや、食べ物善悪などを云つてゐる閑のないことは云ふまでもないことである。日本軍の強さは最も苦難な境涯に置かれた場合を目標にして訓練されてゐることである。私の多少の経験と多くの見聞でそれをよく理解できる。だから私たちが宣傳班員として働いてゐる間、樂な位置ではあつたかも知らないが、以前の従軍作家とは違つた、もつと基礎的なものゝ上に立つて、ずつと兵隊的な近さの點から戦争に接してゐたといふことは云ひ得るのではないかと思ふ。

私が口惜しいと思つたのは私たちが最も肉體的な訓練を経て來て居ないことであつた。しかし、それは苦痛で堪らぬほど苦痛ではない。それは兵隊の勞苦を想像すれば何ほどの苦痛でもないことが分るのである。訓練の大切さを切に反省する。

私の命令された任務の内では、海軍に關する指令がかなりあつた。そのために海軍に關する知識

を何とかして得ようと努力した結果、ある程度の基礎知識を得た。實感を出して書くといふことが私の任務ではどうしても必要であつたからである。

また私の任務が兎も角ある効果をあげて達成出来たことは、海軍の援助もあつたからで、土地的環境や四圍の情況からやむを得なかつたことは云ふまでもない。陸海協力の實はこゝでは全般的にも誇り得るのである。例へば新嘉坡陥落後も暫くの間、内地送りの原稿は私の居た所では海軍側の手によらなければならなかつた。送る途が無かつたのである。醫者も信頼し得る日本人の醫者は海軍軍醫官以外には無かつたので解つて頂けると思ふ。勿論、私たちが海軍へつくしたことは云ふまでもない。

私の任務も陥落すると間もなく次第に任務の性質が變つてきたことはこの本によつても自然に分るのであるが、實際は治安の恢復が早かつたので重要な任務と併行して、この書に現はれてゐるやうな指導をやらなければならなかつた。

日語學校はベナンでは主として在留本島人のB君が當つてゐた。日語教科書はN君が作つた。また低學年用は班員の協力で出来た。またA君が尼僧、Y君が製煉所の従業員に教へるといふ職業別の教へ方をして行つた。その他、小學教師に教へるには海軍下士官の人の力を借りた。いづれにし

る日本語を教へるには、教へる方で苦心慘澹して困つて考へた。

新聞は華、英、マライ、印の四紙が出た。中華民國語はその方の人の檢閲がないとかへつて意味が逆になつたりする場合がある。同文同種とはいへ、日本流ばかりの檢閲は自分の經驗上からも危険であると云へる。かういふ點でも私個人の無力が情なく思ひかへされるばかりである。

私は出来るだけ民情を搜り、民情に喰ひ込んでから日本の意志や知識を知らしめるといふ方法を採つた。これは効果があつたと思つてゐる。

その他、私の計畫したものでは寫眞展覽會、繪畫展覽會、音樂コンクール、管絃樂團の編成などあるが實現の運びに到らなかつた。

ベナンには正味半歳、九月十日まで暮し、昭南詰になつてからは泰國を見ておきたいと思つたが、疲れてしまつてゐて實行する力は無くなつた。

無事歸國した喜びよりも、大東亞戰爭に参加し得た喜びは、日を経るに従つて惻々と身に甦つてくるのを私は感じる。

この書の内容にある當時の現實は勿論、現在の現地では寡なからず修正されつゝ立派に建設されつゝあることは云ふまでもない。(一九〇三年・七月記)